

新保ゼミへの入ゼミを考えている諸君へ

慶應義塾大学商学部新保一成

平成二八年二月一八日

目次

| | | | |
|-----------------------|----|---------------|----|
| 1 わたしたちのミッション | 2 | 3・5 急がば回れの大学院 | 13 |
| 2 入ゼミについて | 2 | 4 結びにかえて | 15 |
| 2・1 募集人数 | 2 | | |
| 2・2 他学部の学生について | 3 | | |
| 2・3 二次次、三次次における留学について | 3 | | |
| 2・4 説明会など | 3 | | |
| 2・5 二年生までの履修要望(商学部基準) | 3 | | |
| 2・6 選考について | 3 | | |
| 2・7 課題図書 | 3 | | |
| 2・8 三田に来るまでに | 5 | | |
| 2・9 関連図書 | 6 | | |
| 3 入ゼミ後 | 8 | | |
| 3・1 ゼミ | 8 | | |
| 3・2 授業 | 8 | | |
| 3・3 新保ゼミでの二年間の凡その流れ | 8 | | |
| 3・4 〈就活〉急がば回れ | 10 | | |

1 わたしたちのミッション

一九四七年八月二五日にインドが植民地時代の宗主国であったイギリスから分離独立する前日、独立インドの初代首相ジャワハルラール・ネルーは、国会での憲法制定会議における「運命の約束」(Trust with Destiny)と呼ばれる演説において、インド国民に独立の喜びを讃えるとともに、独立したインド国民の挑戦は、「貧困 (poverty)」、無知 (ignorance)、「病気 (disease)」そして機会の不平等 (inequality of opportunity) をなくす」ことだと訴えました。

現在世界の人口は七〇億人以上に膨れ上がりましたが、日本のような先進国に暮らす人口は一二億に過ぎず、残り六〇億の人々は開発途上国に暮らしています。ネルーが提示した課題は独立から七〇年の歳月が経過した現在でも未解決のまま残され、インドのみならず開発途上国で暮らす六〇億の人たちにとっても解決すべき課題として残されたままです。いま国際社会は、まさにネルーが提示した課題を国際協力によって二〇三〇年までに解決するために一七の開発目標からなる「持続可能な開発目標」(SDGs, Sustainable Development Goals)としてまとめ、二〇一五年九月二五日の国連総会で先進国と開発途上国を含む一九三カ国によって採択しました。

さらに、二〇一五年二月二日には、国連の気候変動枠組条約第二一回締約国会議(COP21)において「パリ協定」が採択されました。二〇一二年までの気候変動に関する国際的枠組みは、一九九七年に京都で採択された京都議定書で規定されていました。京都議定書においては「共通だが差異ある責任」という理念のもと、地球温暖化政策の担い手は先進国に限定されていました。パリ協定では、開発途上国を含むすべての国が協調して温暖化問題に取り組むための仕組みを示しました。二〇一五年は密接に関連する開発と地球温暖化政策の双方にとって転換点の年であったと、歴史が評価する年になるかもしれません。

持続的な開発目標そしてパリ協定に盛り込まれた内容を実際の政策として立案し実現するためには、科学的で実証的な裏付けが必要です。私は研究会

を、開発経済学や計量経済学などの持続可能な開発を理解し分析するために必要な科学的基礎を学び、習得した高度な知識を用いて検証可能な仮説を立ててそれを検証し、その結果に基づいて持続可能な発展を実現するための具体的な方策を考える実習の場でありたいと考えています。新保研では、世界各国の産業連関表をベースにした世界経済モデルによる持続可能な開発の問題のシナリオ分析、特にインドを研究対象として家計レベル、企業レベルのマイクロデータを使った計量経済学的分析を行っています。

日本に暮らすわれわれが開発途上国の実際を知ることが簡単ではありません。インターネットの発達とコンピューターの計算能力の増大は、研究活動における生産性の向上にも大いに役立っています。各国の統計局のみならず、国連や世界銀行の尽力のおかげで開発途上国に関する膨大な統計データにアクセスできるようになりました。書籍、論文、新聞記事も、言葉の問題さえなければ図書館の資源を用いて問題なく読むことができます。最近では写真、動画を問わず映像情報も増え、情報のリアリティも増えています。しかし、これらのデータから得られる情報と実際に自分の目でみた景色、自分の鼻で嗅いだ臭い、自分の耳で聞いた音との間には雲泥の差があります。私の経験からも、自分の足で開発途上国を歩いた後では、データの見え方が随分と変わってくるように思えます。新保研では、机の上、コンピューターの上での学習、研究に加えて、夏休み期間中にインドへの研修旅行を実施しています (India Study Tour)。

2 入ゼミについて

2・1 募集人数

二〇一六年度は、一七期生を一五名程度募集します。

二〇一五年度は、大学院修士課程一年一名、四年生一八名(商学部一八名)、

三年生一九名(商学部一八名、経済学部一名)で活動しています。

2・2 他学部の学生について

学部の制限は設けていません。各学部の学則の範囲内で対応してください。商学部の研究会に一次募集で応募するためには、それ以前にどの学部のゼミにも応募していないことが条件です。二次募集以降に応募制限はありません。

このゼミの活動内容に興味のある諸君は、学部を問わずチャレンジしてみてください。ただし、このゼミの基本的な分析ツールは経済学であることを忘れないでください。いろいろなバックグラウンドのある多様な学生が集まることを歓迎します。入ゼミ選考は商学部の日程で実施します。

2・3 二年次、三年次における留学について

二年生途中で留学し三年生に遡及進級したものについては、商学部ゼミナール委員会の正規の手続きにしたがって秋学期開始時期頃に行われる入ゼミ選考を受けてください。入ゼミ試験では、三年次春学期を新保研で過ごしたのと同程度のレベルにあるかどうかを試験します。

入ゼミ後に三年生の途中で留学するものは、原則三年生に復帰してください。

2・4 説明会など

入ゼミ説明会、オープンゼミなどの日程については、[新保研ウェブサイト](#)、[Facebook ページ](#)、『[慶應義塾大学商学部新保研究室](#)』でお知らせします。

学生が運営するツイッター、メーリングリスもあるようです。学生入ゼミ担当にお問い合わせください。

2・5 一年生までの履修要望(商学部基準)

- 日吉設置の次の科目の単位を取り残していないことが望ましい。
- 経済学基礎Ⅰ、Ⅱ、微積分Ⅰ、Ⅱ、統計学Ⅰ、Ⅱ
- 日吉設置の次の科目の単位を取得していると新保研での活動に大いに役立ちます。

- 経済学Ⅰ、Ⅱ
- 線形代数
- 総合教育セミナー
- コンピューターを使った計算能力を養うことができる科目

2・6 選考について

選考は、面接にて行います。短い面接でみなさんのことを十分に理解するのはとても難しいことです。そこで、「面接までに以下の「課題図書」で紹介する書物の一冊以上を読み、読後感と「こういう点を掘り下げて勉強したい」内容を話してください。その点についてディスカッションします。詳細については入ゼミ担当にお問い合わせください。

2・7 課題図書

- アマルティア・セン、ジャン・ドレーズ『開発なき成長の限界―現代インドの貧困・格差・社会的分断』、明石書店、二〇一五年、湊一樹訳。(Jean Drèze and Amartya Sen, *An Uncertain Glory, India and Its Contradictions*, 2013.)

インドを旅する前にぜひ読んでおきたい一冊です。日本のメディアで紹介されるインドは、華々しく成長する経済新興国の一つです。著者らは、その反映は極めて不確実なもので、発

展を伴った成長ではないと主張します。知らなかったインドについて多くを知ることができます。ここに書かれている知識を持ってインドを旅するのと、持たないで旅するのでは、見える景色が全く違うことでしょう。新担当の「専攻演習D」の教材としても使用します。

- ジェフリー・サックス『地球全体を幸福にする経済学過密化する世界とグローバル・ゴール』、早川書房、二〇〇九年、野中邦子訳。(Jeffery D. Sachs, *Common Wealth: Economics for a Crowded Planet*, 2009.)

開発と環境、すなわち持続的開発の問題を理解するための豊富な知識がわかりやすく記述されています。ミレニアム開発目標(MDGs、Millennium Development Goals)策定の立役者で、著名な経済学者ならではの切り口だと思います。

- ウイリアム・ノードハウス『気候カジノー経済学から見た地球温暖化問題の最適解』、日経BP社、二〇一五年、藤崎香里訳。(William D. Nordhaus, *The Climate Casino: Risk, Uncertainty, and Economics for a Warning World*, 2015.)

地球温暖化問題は、現在の行動が遠い将来に影響を与えるという世代を超えた問題です。統合評価モデルを使ってコンピューター上で現在の行動が将来の経済と地球環境に与える影響をシミュレートするという分析方法があります。この文献は、DICE (Dynamic Integrated model of Climate and Economy) モデルという統合評価モデルによって、地球温暖化問題に対して何が言えるのかを開発者であるノードハウスが綴ったものです。

- アンガス・デイトン『大脱出ー健康、お金、格差の起原』、みすず書房、二〇一五年、松本裕訳。(Angus Deaton, *The Great Escape: Health, Wealth, and the Origins of Inequality*, 2015.)

歴史統計によれば紀元一年から一〇〇〇年ほどの間、どの国でも人々は貧しく、一日に一・五ドル程度の生活をしていました。しかし、続く一〇〇〇年で現在の先進国に暮らす一億の人々は貧困からの大脱出を遂げ、他の地域に暮らす五億八億人の約半分、特に南アジア、サハラ以南アフリカに暮らす七割以上の人口が一日に二ドル以下の生活から未だに脱出できません。貧困とは、人々が自由でその能力を十分に発揮できない状態を意味します。その意味で経済的な側面だけでなく健康や教育の達成度も問題です。二〇一五年のノーベル経済学賞受賞者が大脱出について語ります。

- ジェフリー・サックス『貧困の終焉二〇二五年までに世界を変える』、早川文庫、二〇〇五年、鈴木主悦＋野中邦子訳。(Jeffery D. Sachs, *The End of Poverty: Economic Possibilities for Our Time*, 2006.)

- ウイリアム・イースタリー『傲慢な援助』、東洋経済新報社、二〇〇九年、小浜裕久＋織井啓介＋富田陽子訳。(William Easterly, *The White Man's Burden: Why the West's Efforts to Aid the Rest Have Done So Much Ill and So Little Good*, 2007.)

この二冊は開発援助に対する考え方を闘わせた本です。イースタリーは、サックス流のビッグプッシュ的な開発援助を白人の傲慢だと批判します。イースタリーは、開発途上国の経済成長率を従属変数、開発援助額を独立変数とする回帰分析で、開発援助に効果がなかったことを主張していますが、データには開発援助がなかった場合の経済成長率が含まれていないので、必ずしもこのような結論は下せないと思うのですが、いかがでしょうか。このような視点から読んでみるのも面白いものです。

- アビジット・V・バナジー、エスター・デュフロ『貧乏人の経済学』、み

すず書房、二〇一二年、山形浩主＝訳。(Abhijit V. Banerjee and Esther Duflo, *Poor Economics: A Radical Rethinking of the Way to Fight Global Poverty*; 2012.)

ビッグプッシュ(サックス) vs インセンティブ(イースタリー)の論争に対して、真実は実験で確かめるべしと、フィールドに出て様々なランダム化対照試行(RCT、Randomized Controlled Trial)に基づく社会実験によって実証的な裏付けを蓄積しているのが、著者のデュフロとバナジーらによる **J**

PAL (The Abdul Latif Jameel Poverty Action Lab) です。この本は、彼女たちの様々なフィールド社会実験の結果を専門知識のない読者にもわかりやすいようにまとめたものです。RCTに基づくフィールド社会実験は最近の開発経済学に深く浸透し、米国の大学院ではこの分野で博士号を取得する学生が最も多いとまで言われています。

● ジョナサン・モータック、スチュアート・ラザフォード、ダリル・コリンズ、オランダ・ラトフェン、『最底辺のポートフォリオ―一日二ドルで暮らすということ』、みすず書房、二〇一一年、野上裕生＝監修、大川修＝訳。(Daryl Collins, Jonathan Morduch, Stuart Rutherford, Orlanda Ruthven, *Portfolios of the Poor: How the World's Poor Live on \$2 a Day*; 2010.)

世界銀行の世界開発指標(WDI、World Development Indicator)によれば、二〇一一年において一日あたりの生活費が一・九九購買力平価ドル以下である人口の割合は(これを貧困者比率という)、インドで二一・三パーセント、インドを含む南アジアで二二・二パーセントであり、サハラ以南アフリカでは四四・四パーセントにもいたります。もちろんこれらの人々は、毎日決まって二ドルの収入を稼いでいるわけではなくて、

収入の多い時もあれば、全く無い日もあります。つまりこれらの人々は、このような不安定な収入を回しながら生きていくわけです。著者たちは、インド、バングラデシュ、南アフリカで二五〇の家計にインタビューを繰り返し、フィナンシャル・ダイアリーという日記に記録するというユニークな方法で、貧しい人たちの生活を記録し、その実態を明らかにしました。

2・8 三田に來るまで

1 日吉で学んだ経済学、数学、統計学が使えるようになることが肝要です。

● 経済学については、たとえば、この冊子の最後に付録として添付した問題を自家菜籠中の物の如く解けるようになっていくと、ゼミに入ってから演習や、レポート、論文の作成がスムーズに進みます。自信がない人は、経済学のテキストとして定評のある

○ 神取道宏『ミクロ経済学の力』、日本評論社、二〇一四年。

○ 奥野正寛・鈴木興太郎『ミクロ経済学Ⅰ』(モダン・エコノミックスⅠ)、岩波書店、一九八五年。

○ 小宮英敏『入門経済学のための微分・積分』、東洋経済新報社、二〇一五年。

で確かめながら、経済学における数学の使い方に慣れましょう。特に、偏微分、全微分、同次関数に関するオイラーの定理、制約なしの最適化、制約付き最適化、陰関数定理、包絡線定理は、経済学で頻繁に使います。

● 統計的方法については三田の計量経済学で学ぶこととなります。もちろん、日吉の統計学Ⅰ、Ⅱの知識が大前提です。統計学Ⅱの試験で満点取れるように、その内容を理解しておきましょう。不安な

ところは二年生の教科書である

○ 早見均、新保一成『基礎からの統計学』、培風館、二〇一二年。
で確認しましょう。第一回目のゼミで試験をするという噂もチラホラ。

● 線形代数は必修科目ではありませんが、履修して授業で学ぶか、独学することを薦めます。計量経済学の中心的な分析手法は回帰分析です。日吉の統計学で学んだ回帰分析は説明変数が一つだけのモデルです。これを単純回帰モデルといいます。説明変数が二つ以上の回帰モデルを記述するときに行列やベクトル、すなわち線形代数を使うと、あたかも単純回帰モデルのように表現することができます。産業連関分析においても線形代数の知識が必要です。

○ 以下の内容を理解していると計量経済学と産業連関分析の理解に役立ちます。

内積、行列の演算（特に積）、行列式、余因子、行列のランク、連立一次方程式、単位行列、対称行列、直交行列、行列のトレースの演算、固有値、定符号行列。

○ 次のテキストで計算しながら勉強すると短期間で身に付きそうです。

寛三郎、西成活裕『理工系のための解く！線形代数』、講談社サイエンスエッセイ、二〇〇七年。

2 幅広く読書をするのはとても大事です。少々難しいと思っても、最後まで読み通す忍耐力を養ってください。できるだけ多くの「課題図書」にチャレンジしてもよいですし、以下の「関連図書」も参考にしてください。また、それぞれの文献の巻末に掲載されている参考文献や脚注から関心を広げていくことも大事なので、見逃さないようにしましょう。

3 学術論文を読むことが必要になります。みなさんが目を通さなければならぬ論文の九五パーセントは英語で書かれた論文だと思えます。「課題図書」、「関連図書」に紹介した本のうち翻訳書には原著も示してあり

ます。ぜひ英語にチャレンジしてみましょう。慶應の研究環境はたいへん恵まれていて、ほとんどの学術論文を図書館が提供する電子ジャーナルによって無償で読むことができます。図書館資源の使い方も見つけておいてください。

4 研究した成果を論文として執筆したり、与えられた時間内でプレゼンテーションする能力も養われるはずですが、プレゼンテーションについてはみなさんそこそこ熟すようになるのですが、論文についてはなかなかそうはいかないようです。論文には論文を書くための作法があります。授業で課されたレポートを書くときにも次の文献を参考にしたらいかがでしょうか。私はいまでもしばしば参考にします。

● 木下是雄『理科系の作文技術』、中公新書、一九八一年。

5 スポーツ、芸術、文化活動、ボランティア活動等に励んでいる諸君も多いと思います。継続して頑張ってください。飲み会のときなどにいろいろな話が聞けるのは楽しいものです。

6 「デリーでゲリ〜」になっても「ナンでも食べる」タフさが重要です。インドに行つて辛いものは食べられないというのはとても残念です。少しずつ慣れていきましょう。

2・9 関連図書

● ローズ・ジョージ『トイレの話をしよう世界65億人が抱える大問題』、NHK出版、二〇〇九年、大沢章子訳。(Rose George, *The Big Necessity: Adventures in the world of human waste*, London: Portobello Books, 2008.)

開発途上国、特にインドではトイレを使わない野外排泄が公衆衛生上の大きな問題の一つです。一方で、下水システムが整っていないところで汲み取り式のトイレを使い続けることが、不可触民を解放できない原因にもなっています。この本でマニユアルスカベンジャーという存在を知り、二〇一〇年

一月にニュー・デリーに本部を置くスラブ・インターナショナル (Sulabh International) のトイレ博物館を訪問し、お話を伺ってきました。以後、スラブ・インターナショナルにはインド研修旅行でも何度か訪問しています。

- 吉川洋 『高度経済 日本を変えた六〇〇〇日』、中公文庫、二〇一二年。

日本もかつては開発途上国でした。第二次世界大戦で焦土と化した日本でしたが、一九五〇年代半ばから一九七〇年代初頭の六〇〇〇日で一気に先進国の仲間入りをしました。日本が辿つて来た発展経路を知ることが、現在の開発途上国を研究するときにも役立ちます。映画でも一九五〇年代の日本を知ることができます。小津安二郎監督作品『東京物語』は、風景ばかりでなく日常の生活についても当時の様子を見せてくれます。山田洋次監督作品の『男はつらいよ』のように長期にわたってシリーズ化された映画も時の移り変わりを観察するのによい材料です。

- 杉山伸也 『グローバル経済史入門』、岩波新書、二〇一四年。

従来の経済史研究は、欧米を中心に据えて議論されてきました。この書物では、グローバル・ヒストリーとい新しい視角からアジアを中心に据えて一四世紀から現代までの経済史を描いたものです。世界経済におけるインドの役割を確認するためにぜひ読んでおきたい一冊です。杉山先生は、慶應の経済学部教授を二〇一五年三月に定年で退任されました。

- デイーン・カーラン、ジェイコブ・アペル 『善意で貧困はなくせるのか？ — 貧乏人の行動経済学』、みすず書房、二〇一三年、清川幸美 訳、澤田康幸 解説。(Dean Karlan and Jacob Appel, *More Than Good Intentions: Improving the Ways the World's Poor Borrow, Save, Farm, Learn, and Stay Healthy*, 2012.)

課題図書に選定した『貧乏人の経済学』と同様に RCT による研究成果を一般向けに紹介した本です。バングラデシュのグラミン銀行によるマイクロ・ファイナンスの成功は、連帯責任制によるところが大きいというのが理論的にも実証的にも定説でした。彼らは、RCT によってグループ責任と個人責任で返済率に差がないことを示しました。

- パーサ・ダスグプタ 『一冊でわかる経済学』、岩波書店、二〇〇八年、植田和弘・山口臨太郎・中村裕子 訳。

先進国に暮らすベッキと途上国に暮らすデスタの間に横たわる格差の形成を経済学で説明します。うすい本ですが、開発経済学のエッセンスがぎゅと詰まっています。数式は一本もありません。この本からスタートして、経済学を深く学んでいくのもよいでしょう。原書はとても薄いので、英語でチャレンジしてもよいでしょう。

- 岩井克人 『ヴェニススの商人の資本論』、ちくま学芸文庫、一九九二年。

知的な世界を満喫してください。この本を読んでおもしろいと思った人は、『不均衡動学の理論』(モダン・エコノミックス 20、岩波書店、一九八七年) にチャレンジしましょう。

- レイチエル・カーソン 『沈黙の春』、新潮文庫、一九六二年、青樹梁一 訳。
- 有吉佐和子 『複合汚染』、新潮文庫、一九七九年。

『沈黙の春』は一九六二年に書かれた本ですが、カーソンがこの本で警告した化学薬品に起因する公害問題は、いまでも解決されていないものが数多くあるように思います。有吉佐和子の『複合汚染』は『沈黙の春』の日本版ともいえるドキュメンタリーです。

- ジャレド・ダイアモンド 『銃・病原菌・鉄(上、下)』、草思社文庫、二〇一二年、倉骨彰 訳。

なぜ人間は五つの大陸で異なる発展をとげたのか？ひとつの
壮大な仮説が提示されています。

3 入ゼミ後

3・1 ゼミ

本ゼミ 金曜四、五、六限。四限と五限をゼミ員の報告とディスカッションに充てます。六限は、授業や本ゼミではカバーできない内容について講義します。

サブゼミ 学生主体、全体もしくはグループで行います。

ゼミ活動の様子を [Facebook ページ](#) 『慶應義塾大学商学部新保研究室』でゼミ員が発信します。

3・2 授業

新保は三田で次の授業を担当します。そのほか計量経済学、経済学関連の授業を履修することを薦めます。

- 専攻演習D（通年、火曜一限。商学部）
- 計量経済学各論（開発経済の計量分析）（春、金曜三限、商学部）
- 計量経済学各論（環境経済の計量分析）（秋、金曜三限、商学部）
- 計量経済学演習（通年、水曜四限、商修士）

3・3 新保ゼミでの二年間の凡その流れ

ゼミに在籍する二年間で以下に示す五つの論文に携わることとなります。もちろん、四年生のときに書く卒業論文が新保研における総仕上げになります。

三年生のとき

- 1 四年生の卒業論（コメンテーターとして）
 - 2 三田祭論文
 - 3 インド研修旅行レポート
- #### 四年生のとき

- 1 三年生の三田祭論文（サポーターとして）
- 2 卒業論文

総仕上げの卒業論文の執筆に向けて、ゼミの二年間は凡そ次のように進んでいきます。

三年春学期

- 開発経済学、産業連関分析、統計的方法など基礎的な知識の理解に努めます。この期間にコンピューターによる計算の実習も数多く経験することが重要です。
- 四年生の卒論中間報告が始まります。三年生は、いずれかの卒論のコメンテーターになります。卒論の研究過程、執筆過程、プレゼンテーションの仕方、グループ研究の進め方などを四年生から学びます。卒論中間報告のときには、よりよい論文に仕上げるための討論をします。

六月中旬 三田祭研究の研究計画立案開始。三田祭研究は、グループで行います。各グループに四年生がサポーターにつきまます。研究内容は、「グループ+四年生サポーター+新保」で話し合いながら煮詰めていきます。さらに、ゼミで経過報告しながらゼミ内で情報を共有し、他のグループ、他の四年生からもコメントをもらいながら、研究計画を仕上げていきます。

六月中旬 インド研修旅行の計画立案開始。基本的に新保が現地と連絡を取りながら進めます。訪問場所や現地活動などについてアイデアがあ

れば遠慮なく提案してください。パスポートを持っていない人は手続きを始めてください。A型肝炎など予防接種も始める時期です。

三年夏休み インド研修旅行の期間中、プライマリー・スクールでの日本文化の紹介や同じ世代の若者達とのディスカッションなど、現地活動を行う場合があります。その準備を進めます。三田祭研究を夏休み期間中にできるだけ進捗させることがとても大事です。グループでしっかりと計画を立て、実行に移してください。

九月上旬 インド研修旅行。一週間〜一〇日間。インド研修旅行には、三年で参加しても、四年で参加しても、両方参加してもオーケーです。お金がかかることですし、衛生面でもリスクのある地域なので強制はしませんが、いわゆる観光旅行ではないので貴重な経験になると思います。

三年秋学期

- 三田祭研究がメインイベントです。三田祭研究は三年生にとつての「研究始め」になります。思ったように進まなかったり、やろうとした事が三田祭まで終わらないこともあろうかと思えます。グループで協力しながら、最後まで努力を継続することが大事です。三田祭では研究成果をポスターセッションとして報告します。最終的に三田祭研究を論文としてまとめることを目指します。
- インド研修旅行のレポートを日本語と英語で作成します。作成したレポートは、インドでお世話になった方々に配布します。
- 開発経済学、計量経済学、数値計算などの基礎的知識のインプットを継続します。

十一月二〇日〜二三日 三田祭

一月 卒論の研究計画の立案を開始します。三田祭の経験を経て、それを継続するのか、新たなテーマに取り組むのかの選択になります。卒論

も原則としてグループで執筆します。特に、三田祭研究を継続するグループに新たに参加する場合には、継続研究に新たな付加価値を加える相当な理由が必要だと思います。お互いに十分な話し合いが必要です。二月中に研究計画書を提出し、新学期が始まるまでに「グループ+新保」で話し合いながら、研究を開始できるように煮詰めていきます。

四年春学期

- 卒論の中間報告を開始します。
- 古典や次期課題図書候補になるような本を四年生中心で輪読します。
- 三年生の先導役としての役割もあります。誠実に対応して下さい。
- 卒論に必要な計量経済学的方法や数値計算の方法などで、これまでにゼミや授業で十分にカバーできないものがあれば、ゼミの時間に適宜補います。

九月上旬 インド研修旅行。一週間〜一〇日間。

四年秋学期 四年春学期に同じです。

十一月上旬 三田商学研究学生論文集の応募締め切り。これに応募するグループは、提出までに新保から何度か論文指導を受けリバイズを繰り返します。

一月上旬 学生学会。ここで発表するグループは、提出までに新保から何度か論文指導を受けリバイズを繰り返します。

一月末 卒論提出。

二月初め 卒論発表会および追いコン。

3・4 〈就活〉・・・急がば回れ

ゼミに在籍する二年間に多くの学生が〈就活〉に無視できない時間を割くことになりました。最近の学生たちを覗いていると、「ずいぶんと先を急いでいる」、「焦っている」と思うことがよくあります。三年生の夏休みにも至らないうちに、頭の中が〈就活〉ということばに浸され始めます。そして、授業やゼミそつちのことで、企業のセミナーやインターンシップへと強迫観念に囚われているかのように足を運び始めるようになります。インターンシップは、学生時代に経験する職業経験・社会勉強という域を超え、学生生活の中心部分へと浸食を始めます。二〇一五年度の就活は安倍内閣の肝入で春学期終了後の八月一日解禁ということでした。その理由は、大学の学事日程を侵さず、学生の就学機会を奪わないということであつたはずですが、しかし、実態は解禁日というのは形だけであつて、八月一日解禁を守つた企業とそれ以前に採用活動を実施した企業による就活二回戦であつたというのが実際でした。したがつて、三年生の秋学期末試験終了後から四年生の夏休みにかけての半年以上の長きにわたつて〈就活に囚われた日々〉が続いたことになりました。二〇一六年度の〈就活〉(二〇一七年度入社)は二ヶ月前倒しして六月に解禁されることが経団連から発表されました(経団連の採用選考に関する指針)¹。これでは大学四年生は勉強しないでよいと社会が認めたようなもので、日本社会が日本の将来にどのようなビジョンを持つているのか不安になります。

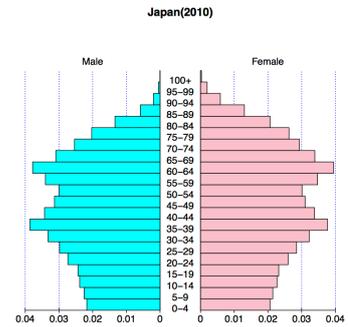
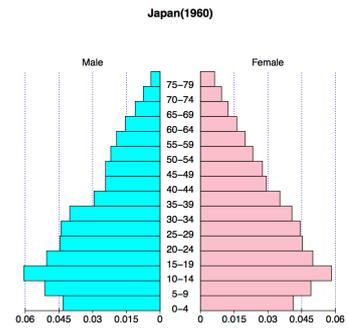
このように、ゼミで過ごす二年間のうち半分以上が〈就活に囚われた日々〉である、そんな学生が本当に多いように観えます。〈就活に囚われた日々〉を

1 二〇一六年二月一七日の朝日新聞(朝刊、十二頁)に、リクルートキャリアが二〇一五年度二月～二〇一六年一月に四〇五〇社を対象にした採用日程に関する調査結果が掲載された。調査には二六〇社が回答し、解禁前の四月に面接を始める回答した企業が三三・九%、五月までに面接を始める回答した企業は六七・九%に達した。さらに、五月までに内定を出し始めると回答した企業は四四・一%もある。経団連が一六日公表した会員企業の調査結果(対象一三三二社、回答率五九・四%)でも、昨年の採用活動について「八月解禁」が企業全体として「守られていない」と振り返つた企業が八七・五%に上つた。いわゆる解禁日は形だけのものであるという実態が浮き彫りになった。

送るうちに、将来のベクトルを定めるために自分にとって有用な知識は、企業のセミナーやインターンシップから得られるもので、大学の授業やゼミからは何も得られないと刷り込み、刷り込まれ、授業やゼミに真剣に取り組むモチベーションすら失つてしまうようです。〈就活に囚われた日々〉が終わった四年生は、目的を失い、すでに学業からは実質的に遠のいていますから卒業モードになるまでには長いリハビリの時間が必要で、気がつけば秋風から寒風が変わろうかという季節です。

ちよつと道草します。科学技術の発展のおかげで人間は長生きすることができるようになりました。日本人の平均寿命は、男性で八〇・五歳、女性で八六・八三歳で世界一の水準です(厚生労働省平成26年簡易生命表)。日本が国民皆保険・皆年金の社会保障制度を導入したのは私が生まれた一九六一年です。一九六〇年の平均寿命は男性で六五・三二歳、女性で七〇・一九歳でした。つまり、この五五年間で日本の平均寿命は男女ともに一五年ほど長くなつたわけです。定年退職年齢も平均寿命が六五歳程度の時代に五五〜六〇歳であつたものが、現在では六五歳になりつつあります。日本の公的年金制度は賦課方式で、働いている現役世代が退職後の高齢者を支える仕組みになっています。左の図は、一九六〇年(上)と二〇一〇年(下)の日本の人口ピラミッドです²。今の社会保障制度が確立してきた時代には高齢者を支える現役世代が豊富にいたわけですが、現在では少子高齢化の時代になり支える世代が圧倒的に少なくなつてしまつたことがはっきりとわかると思えます。つまり、みなさんの世代はより長い間、現役世代であり続けなければならぬわけで、六五歳を超えて働く時代はもうすぐそこまで来ていると言われています。学部を卒業するときの年齢は二五歳に満たないでしょうから、学部卒業後四〇年以上の長きにわたつて働くということになりそうです。

2 国連 World Population Prospect より作成。



もう少し道草を続けます。今は「大きな変化の時代」と言われます。私が学生時代の三〇年ほど前には、パーソナル・コンピュータや携帯電話などありませんでしたし、コンピュータや電話を持ち歩けるようになって誰が想像したでしょう。慶應で電子メールが使えるようになったのも一九九五年だと記憶しています。それまでは海外と連絡するためには、国際電話会社に電話してオペレーターさんに繋いでもらう、あるいは手紙を書くしかありませんでした。そんな状態では、インド研修旅行の計画を立てることもままならなかったことでしょう。じきにファックスが登場しましたが、その時も驚きでした。ファックスに読ませた紙が相手に届くものと勘違いして何度も送信している人もいました（私ではありませんよ）。読みたい論文は図書館で一枚一〇円の料金を払ってコピーしていました。コピーのない時代には、図書館で論文を読んでノートを作るしかなかったのでしょね。電子ジャーナルの出現で、学生、研究者が使う紙の量は相当に減り、環境問題に多大な貢献しているに違いありません。私が学生時代には、自宅の桶川から日吉に通うには高崎線＋赤羽線＋山手線＋東横線を乗継ぎ二時間半ほどかかりましたが、今では湘南新宿ライン＋目黒線で一時間ちょっとしかかかりません。駅の改札には切符切りの駅員さんがいて見事な職人技を披露していましたし、バスには切符を売って料金を徴収する鞆を首から下げた車掌さんがいま

した。これらの仕事は、自動改札、Suica、PASMOなどのICカードという新技術に代替されたわけですね。技術進歩のおかげでわれわれの暮らしは随分と便利になりました。一方で、失われた仕事もあったわけです。私と同じ年代の学生が「就活」したところは都銀一三行、大手二〇行などと言われましたが、バブル崩壊後の不良債権問題や制度改革によって、いまや三大メガバンクに合併されました。日本長期信用銀行、日本興業銀行、日本開発銀行という政府系金融機関は、慶應の中でも選ばれたものが就職するという憧れの銀行でしたが、その名前ももうありません。インターネットがなかった時代ですから、楽天などのネットショッピングやインターネットサービスを提供する企業はありませんでした。最近では、データアナリストなる新しい職種も出現しています。一九五五年～一九七〇年の高度経済成長時代に安定して定年まで働きあげた時代と違って、内外の経済環境の変化が要因となって、勤めている会社自体がなくなってしまうリスクの大きな時代でもあるし、全く新しいビジネスの機会がどんどん生まれる時代でもあるわけです。

話を元に戻しましょう。右に書いたことは、すべてこの三〇年の間に起きた変化です。みなさんが卒業して働くこれからの四〇年以上の間にどのような変化が待ち受けているのでしょうか。「大きな変化の時代」においては、大学四年生のときの「就活」は決して終わりでないし、大学生活の最終目標でもないのだと思います。寿命が伸びて長生きできるようになった、新しいビジネス機会が増えるというのは、みなさんにとってチャンスが巡ってきていることにほかなりません。チャンスを活かすためには、そのための準備が必要なのはスポーツも仕事も同じです。将来を見据えて、自分の現状を評価し、次のチャンスに向けて準備をしていくことができます。大切な時代になってきたようです。

もちろん、仕事の中で養った能力は次のステップに向けて大いに役立つでしょうし、その能力を自当てにあなたに近づいてくる企業もあるでしょう。いわゆるヘッド・ハンディングです。一方で、ある企業で養った技術を身につけたあなたは、その企業にとっての特殊生産要素でしかなく、他の企業で

はすぐには役に立たないかもしれませんが。どのような状況であれ、みなさんは次のステップに進むために自分の能力を説明して納得してもらわなければなりません。そのためには、自分の能力を把握し体系立てて整理することが必要で、それには学問の力を借りるのが、遠回りのように見えて一番の近道で説得的だと思います。経済学、経営学、マーケティング、情報工学、統計学などといった学問によって、あなたの能力の裏付けを取ることができるはずです³。仕事で能力をスキルアップし、学問の力を借りてその能力をマネージメントするというわけです。

次のステップに進むために「学び直し」を選択することもできるはずですが⁴。働きながら独学する、あるいは同じ志を持った仲間とグループ学習する、国内の大学院に進学する、海外のMBAに挑戦するなどいろいろな選択肢があるでしょう。「三田に来たら勉強するぞ」という意気込みでゼミに入った先輩たちも多いはずです。しかし、四月になつていざゼミが始まると、「難しい、わからない・・・」というため息が聞こえてきます。久しぶりに会ったゼミの卒業生は必ず言います、「学生時代にもっと勉強しておけばよかった。」と。ゼミの先生と話するときの社交辞令として少々割り引くにしても、率直な感想だと思えます。これらは、いずれも準備不足で現状に対応できないという症状です。スポーツでも同じです。フルマラソンを走ろうと思っても、何の準備もしないでレースに臨んでも完走することすら難しいでしょう。付け焼き刃でレースの二、三週間前に二〇km程度走っても、四二・一九五kmはそうは簡単に走れるものではありません。たとえ遠回りに思えても一日一〇kmでも毎日毎日コツコツと地力をつけていくことが成功への近道です。試験

³ 新保ゼミでは、組織や経営の経済学的捉え方に踏み込んで勉強する機会は少ないと思えます。以下の書籍を読むとよいでしょう。内容をしっかりと理解するためにはゲーム理論の理解が不可欠です。伊藤秀史『ひたすら読むエコノミクス』、有斐閣、二〇一二年。ジョン・マクミラン『経営戦略のゲーム理論交渉・契約・入札の戦略分析』、有斐閣、一九九五年。伊藤秀史・林田修二訳。ポール・ミンケロム、ジョン・ロバート『組織の経済学』、NTT出版、奥野正寛・伊藤秀史・今井晴雄・西村理・八木甫二訳。ジョン・マクミラン『市場を創るバザールからネット取引まで』、NTT出版、瀧澤弘和・木村友二訳。

⁴ 東京大学の柳川範之先生は「四〇歳定年制」を提唱し、「学び直し」を含む複線型の働き方を推奨しています。柳川範之『40歳からの会社に頼らない働き方』、ちくま新書、二〇一三年。

の寸前に過去問を頼りに一夜漬けで統計学を詰め込んで試験をなんとか凌いでも、ゼミで実際に使おうとしたらどうにもならないのと同じです。さらに実践では経験も物言います。「学び直し」も同じです。それまでの学びの経験が、学び直しをスムーズにスタートさせ、当初無理かと思えた課題を克服できることはよくあることです。ビジネスでもスポーツでも、その道のプロと言われる人たちでも次々に新しい課題にチャレンジして新たな業績を積み上げているのを見ることが多いと思いますが、それは自分の能力を客観的に評価し、地道に築いてきた基礎の上に周到な準備を重ねた結果だと思えます。次のステップに踏み出すには、小手先目の技術ではなくて、遠回りであっても基礎を築いておくことが大事だということです。

〈就活に囚われた日々〉の中で授業、ゼミの時間、そのための勉強時間を犠牲にして、「御社」の説明会に参加して、ウェブや『会社四季報』で「御社」の情報を探り、面接でその成果を披露し、「御社」からの電話をひたすら待ちます。たとえその電話がゼミや授業の時間中であっても、何の断りもなしに廊下に出ていってその電話受け、ドヤ顔で戻ってくるものいけば、ヘコんだ顔で戻ってくるものもある。本来、そのような行為をしている時点で社会人になる資格を疑うべきです。新しい仕事にステップアップしようとしているときに、現在の仕事をほっぽらかして〈就活〉に専念していたら、新しい仕事が見つかる前に失業するのがオチでしょう。たとえゼミや授業に出ていても「御社」からの電話に気もそぞろなわけですから、スマホばかりが気になり、授業やゼミの内容など頭に入るはずがありません。このような生活が六ヶ月も続いたら、卒業モードの生活にすぐに戻ることができるはずがありません。練習が嫌で六ヶ月もマラソン練習をサボったら、おそらく走るところへのモチベーションを失ってしまい復帰することはないでしょう。ところが怪我をしてしまつて走りたいにもかかわらず六ヶ月間走ることができないときには、筋力トレーニングに励んだり体重をコントロールするために食事制限をするなど、いまでできることを探して復帰に向けた努力を怠らないことでしょう。みなさんが「御社」について調べた知識は、「御社」の人にとつ

ては何も新しいことはなく、「御社」もそのような知識を期待しているとは思えません。「御社」はみなさんの基礎力に期待して、「御社」の発展に寄与してもらうためにみなさんを雇うわけです。つまり、八方美人的にいろいろな「御社」の情報を付け焼き刃のように叩きこむという行為は、「御社」も望まないし、みなさんにとってもゼミや授業のために費やす時間を犠牲にするほどの価値はないと思います。

〈就活〉の時期に関しては、みなさんは完全に受け身の状態です。したがって、将来を見据えて上手に適応することを求められています。言いたいことは、「慌てるな食はもらいが少ない」、「急がば回れ」ということです。変化が激しく、身につけた知識もどんどん陳腐化してしまう時代だからこそ、焦らずに、少々道草を喰ってでもじっくりと地力を付ける。そのように生きることを故筑紫哲也さんは〈スローライフ〉と呼びました⁵。授業やゼミに熱心に取り組むことよって得られる専門的な知識、専門にこだわらない幅広い読書、映画、旅、サークル活動、体力、ボランティアなど、どれをとっても「モラトリアム」といわれる学生時代だからこそたつぷり貯えることができるとののだと思います。もちろん社会勉強としてのインターンシップもその一部です。先を急いで〈就活に囚われた日々〉を送る人たちを余所目に、〈就活〉の強迫観念を断ち切って〈スローライフ〉を貫くのはとても勇気のいることかもしれません。それでも目先小手先に囚われない〈スローライフ〉を実践してみたいかがでしょうか。

3・5 急がば回れの大学院

現役大学生にこそ与えられている〈スローライフ〉を実現するもう一つの方法が、もつと道草を喰って大学院修士課程でより専門的な勉強をした後に社会に出ることです。ときに企業は、大学院卒の学生を〈専門バカ〉で頭が硬いとレッテルを貼り採用を嫌うようです。企業はこうも言うようです、「ヘン

⁵ 筑紫哲也『スローライフー緩急自在のすすめ』、岩波新書、2006年。

に専門知識がないほうが、伸び代が大きくて潰しも効くんだよ」と。さらに、「学校の勉強よりもコミュニケーション能力を養ってきてほしいね」などと言ったりもします。このような都市伝説が、大学生の大学離れを助長し、授業時間中に開催される企業説明会に学生を足繁く向かわせているようです。大学時代にまったく勉強しなかった、あるいは商学部や経済学部を卒業したのに経済学や経営学やマーケティングについて何も知らないし、リサーチの経験もなくて四方山話しかできない〈タダのバカ〉より、〈専門バカ〉のほうが余程ましなのは明らかです。地力のある人材のほうが幅広い分野に対応できる、つまり潰しが効くのも明らかです。いまは「ビリギャル」⁶が有名ですが、大学受験のときに部活ばかりに力を入れて勉強をしていなかった高校生が、受験勉強を始めるや一気に偏差値を三〇も四〇あげることがあるという事実をもって、何もしていない学生の方が伸び代が大きいという一般化をしてしまうようです。彼らは、様々な練習メニューを作ったり、トップ選手のプレーを研究したり、食事を管理したり、毎日毎日その競技で成果をあるための努力をしてきたはずですが、大学受験での成功は、部活で燃え尽きることなく部活に向けられていた熱意と時間を受験勉強に転換することに成功した結果であると考えるほうが論理的です。

修士課程を終了するには、修士論文を提出して三人の審査員から審査を受けて、修士号を取らなければなりません。正直言って、物凄く大変です。「それなのに大学院に進むメリットは何か」とよく質問されます。学部生の七〇%から八〇%が修士課程に進む理工学部なら就職するために必要だからと答えるのですが、日本の経済・ビジネス系ではまだそういう時代ではなさそうです。一部の金融取引に関わる仕事では金融工学⁷に関する知識が不可欠で、就職後にビジネススクール等の大学院で「学び直し」をする人も多くい

⁶ 坪田信貴『学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話』、KADOKAWA/アスキー・メディアワークス、二〇一三年。角川文庫版もあります。

⁷ 証券市場における先物やオプションなどのデリバティブ商品の価格付けを理解するためにハインナー過程などの確率過程、ブラウン運動で表される確率微分方程式などかなり高度な数学的知識が必要です。三田設置の「経済数学II(数理ファイナンス入門)」でこれらの知識を学ぶことができます。

ます。また、世界銀行などの国際機関で開発に関わる仕事をするためには専門家としての分析能力が要請されるので、最低でも修士号と英語を使って仕事ができる能力が必要とされます。つまり、修士号以上の学位を持っていることで将来にわたって携わることのできる仕事の種類が増えるというメリットがあります。修士課程で勉強する場合には、学部でゼミに属する二年間プラス修士課程で〈就活〉を始めるまでの期間を継続して地力をつけるための時間に充てることができます。その期間に「わからないことをわかろうとしてワクワクすること、そしてわかつたときの感動を味わう機会」をたくさん経験するはずで、そして、執筆した修士論文の内容に関する専門家として社会に出て行くこととなります。新保研の先輩の中には大学院で勉強した後、経済の専門家として中央銀行その他の金融機関、海外の大学、国際機関で活躍している先輩もいます。身につけた統計的方法やコンピュータ技術を武器にしてデータアナリストとして活躍している先輩もいます。どの先輩たちも仕事を楽しそうであり、常に勉強することを怠らず、次のチャンスを見逃さずと狙っているようです。

慶應の商学研究科には、CEMS、リーディングプログラムといった海外で学ぶチャンスとダブル・ディグリーを同時に実現できるプログラムも準備されています。このような魅力的なプログラムが準備されていることを早い段階から知ることができ、在籍する二年間の生活に変化を与えたいと思いますので、ここで簡単に紹介しておきます。CEMSは欧州を中心とする世界トップレベルのビジネス・スクールと多国籍企業の連合体です。CEMS派遣生として選ばれた学生は、商学研究科在学中の二学期を一学期ずつ別のCEMS加盟校で学びます。そして、CEMSが提供する国際経営学修士コースを所定の要件を満たして修了すると国際経営学修士を取得できます。このようにCEMSコースは、商学研究科の商学修士号と国際経営学修士の二つの修士号を取得できるコースです。

一方、リーディングプログラムですが、正式名称を「博士課程リーディングプログラムオールラウンド型超成熟社会発展のサイエンス」と言います。

新保研が研究対象とする地球温暖化など現代社会が抱える諸問題の解決の糸口を見出すために、一つの学問分野だけではなく複数の学問分野が融合することが必要になって来ました。そのような時代においてリーディングプログラムは、「新しい社会の仕組みを創り、新しい産業を進展させ、国際社会を先導しながら超成熟社会の持続的な発展のシナリオを描き、それを断固として実行できる専門性と周辺総合力をともに備えた次代のリーダー」となる高度博士人材の育成・輩出を目指すプログラムです。とかく博士課程という研究者を育てるコースというイメージがありますが、リーディングプログラムでは専門性と総合力を備えた高度博士人材を社会に送り出すことを目的としています。欧米では博士号を持った人材が研究機関の外の社会で働くことはあたり前のことです。特に官庁での仕事は高度の専門性が必要で、欧米の官庁には博士号を持った人材が豊富にいます。大学入試のような公務員試験を合格したものだけがお役人になる日本の仕組みとは大いに異なります。また、経済学博士号を取って金融機関でエコノミストとして超高給を稼ぐ人たちもいます。リーディングプログラムの特徴は、専門性に総合力を加味したことにあります。それを実現するために、大学院修士・博士の五年一貫のカリキュラムの中で、文系と理系のように互いに大きく異なつた分野の修士号を二つ取得する「ジョイントディグリー制度」を導入しました。さらに、修士課程における海外インターシップと博士課程における短期留学の二段階の海外派遣が準備されています。そのため、リーディングプログラムが定める共通科目は全て英語で行われます。さらにさらに、リーディングプログラムに選ばれた学生はリーディングプログラムのリサーチ・アシスタント（RA）として慶應義塾に雇用され、月給が支給されます。この職業履歴を、将来の〈就活〉の際に大きくアピールすることができます。新保研の大学院生から一名リーディングプログラムに選ばれ、副専攻では医学研究科で公衆衛生に関する研究をする予定でいます。主専攻では学部ゼミ時代からインド農村家計におけるエネルギー転換に関する研究をしています。不衛生な飲料水、野外排泄の慣習などに起因する感染症といった公衆衛生の問題もイン

ドにおいて解決が急がれる大問題の一つです。逆に社会学研究科の大学院生が、副専攻として商学研究科の新保研で中国の地域間格差の研究をすることになっていきます。

4 結びにかえて

みなさんは現在に至るまでに節目節目で選択の場面に直面して来たと思います。ここまで長々と書いてきたことは、選択の時点に至るまでの過ごし方が、選択肢の範囲も変えるし、選択基準も変える可能性があるということです。残念ながらタイムマシンでもないかぎり、同じ時点に戻ってやり直しをして最適な選択肢を選ぶことはできません。ゼミの選択も同じです。選んだゼミで精一杯やって、次の選択のための準備をするしかありません。みなさんがよいゼミの選択をできることをお祈りしております。

付録 A

家計 A は、コメと灯油を購入するために準備した予算 y の範囲内でコメの需要量 q_1 と灯油の需要量 q_2 を効用 $u(q_1, q_2)$ を最大にするように決めようとしている。ただし、コメの価格 p_1 と灯油の価格 p_2 は市場で決められているものとする。予算制約は

$$y = p_1 q_1 + p_2 q_2 \quad (1)$$

と書ける。 y , p_1 , p_2 は家計 A にとって与えられた定数で、家計がコントロールできるのは需要量 q_1 と q_2 だけである。

効用関数の関数形は、以下のように与えられている。

$$u(q_1, q_2) = (q_1 - \alpha_1)^\beta (q_2 - \alpha_2)^{1-\beta} \quad (2)$$

この形の効用関数はベルヌーイ・ラプラス型 (Bernoulli-Laplace), クライン・ルービン型 (Klein-Rubin), ギアリー・ストーン (Geary-Stone) 型などと呼ばれる。また、この効用関数から導出される支出体系が価格と予算の線形関数になるので線形支出体系 (LSE, linear expenditure system) とも呼ばれる。 α_1 , α_2 , β は、この効用関数の構造パラメーターである。 α_1 と α_2 は、コメと灯油の最低必要量を示す。また、 β は最低必要量を支出した後の残りの予算 $y - p_1 \alpha_1 - p_2 \alpha_2$ のうちコメに割り振る割合を示す。したがって、 $1 - \beta$ は残りの予算を灯油に割り振る割合である。

- 問 1** さて、予算制約 (1) のもとで効用関数 (2) を最大化するという家計 A の問題を λ をラグランジュ乗数、ラグランジュ関数を $\psi(q_1, q_2, \lambda)$ とする制約付き最適化問題として定式化して効用関数 (2) を最大化する家計 A のコメと灯油の需要関数を導出しなさい。
- 問 2** 次に、導出された需要関数が財の価格と予算に関する 0 次同次関数であることを確認しなさい。
- 問 3** また、需要関数の両辺に各財の価格をかけて支出額に変換した関数が、財の価格と予算の線形関数であることを確認しなさい。